方言ヤアフルキト同上ともいふ、葉は菊に似て大なり、○略中植るには四月頃野土の肥地へ植、人糞を澆てよし、十月根を掘採、種にするには芋を貯如く、日向よき地を深く掘埋置、春の末ほり出して植べし、

〔農家備要五〕馬鈴薯（なんきんいも）

莖の高さ凡一尺五六寸、狀ち如圖、○略圖莖葉共に毛茸あり、春三月の初め球根を分ち植置く時は、一根より二三莖を出し、六七月に至て、根に三四の球根を生ず、培養至て易きものなり、糞も水糞一兩度にてよし、地合は先砂地を好む、然れども何れの地にも能く生育するもの也、甘薯に比すれば、甘味少く、皮も至て薄く、風味格別勝れしものなり、甘味少きを以て、酸敗液を釀す事なく、餘分に喰ふてさまたげなし、今長崎其外諸國に培養し、酒を釀し味噌を作る所多し、又甘薯より永く貯ふ事出來るもの也、

〔二物考〕題言

同國野○上伊勢街（イセチ）ナル柳田鼎藏ト云フ者、一種ノ芋ヲ贈レリ、之ヲ見ルニ、其形（トコロ）草薢ノ如ク、又土圞兒ノ如シ、土俗之ヲ咬吧芋（ジャガタライモ）ト稱ス、是レ卽チ和蘭ニ所謂アルド、アップルナリ、炮炙シテ之ヲ食フニ、其淡白ナルコト薯蕷（ヤマイモ）ノ如ク、其甘キコト甘藷（サツマイモ）ノ如ク、更ニ滋味粘氣アリ、其性毒ナシ、以テ日用ノ食ニ充ツ可シ、和蘭地方單ニ之ヲ以テ食トスル處アリ、而シテ甘藷ノ寒ヲ恐ルヽガ如クナラズ、寒地熱國ニ關セズ、荒野瘠地ヲ厭ハズシテ、一根數十塊ヲ得ベシ、○略中

丙申○天保七年重陽之夜、高野讓識、於東都麹街甲斐坂之大觀堂、

〔二物考〕馬鈴薯

和名ジヤガタライモ、甲州イモ、チヽブイモ、アツプラ、清大夫イモ、八升イモ、カツネンイモ、ジユミヨウイモ、テイジウイモ、闌名アールド、アツプル、

此薯モ又其傳ル所ヲ詳ニセズ、甲信等ニハ古ク傳ハリテ播殖スト云フ、蓋シヂヤガタラ芋、又アツプラ奥地ノ方言ナリ、按ズルニ此ハアールド、アツプルノ略言ナリ、ノ稱名ニ因テ之ヲ考ルニ、此ハ蘭人ノ齎來シテ種ヲ傳フ